

平成14年度海外環境協力セミナー 「国際環境ビジネスと環境保全（その1）」に参加して

（株）東京設計事務所
技術管理部ISO管理チーム・チームリーダー 岩橋一好

平成14年6月12日（水）午後、虎ノ門パストラル新館4F「アイリスガーデン」において、以下の3テーマでセミナーが行われた。

1. 東南アジアの森林火災と対策の現状
2. 環境装置産業の国際協力
3. 環境パフォーマンスと企業評価

私は、環境の専門家ではないので、今回の3つのテーマについて素人として感じたことを書かせていただくことにした。

1 東南アジアの森林火災と対策の現状のテーマについて

マスコミ等で森林火災のことは知っていたものの、森林火災によって地球環境に及ぼす影響の大きさに改めて驚き、同時に熱帯雨林の重要性を再認識した。特に、本セミナーではインドネシアの森林火災を例に挙げて、森林火災の種類、発生のメカニズム、経済的損失、周辺諸国でのヘイズによる深刻な問題等が報告された。これらに対する対策として、日本を始めとして各国の援助機関および国際機関が支援しているものの、資金的な問題等さまざまな課題があり、限界すら感じた。しかし、こうした地球環境問題は、インドネシア一国の問題ではなく、地球に住む人類すべての問題として考え、継続性を持った国際支援プロジェクト・スキームが不可欠であり、インドネシアの場合は近隣諸国への影響を考えれば、アセアン諸国がもっと積極的に協力すべきだと痛感した。特に日本がリーダーとなって積極的に参画することでビジネスチャンスが生まれるような気がした。

2 環境装置産業の国際協力のテーマについて

業界は違うが、我々コンサルタント業界においても同様のテーマで議論した記憶がよみがえり、懐かしく感じた。本セミナーでは、社日本産業機械工業会の平成12年度・環境装置産業の国際協力のあり方に関する調査研究報告書が紹介された。国際協力における日本企業と欧米企業との違いを国レベル、企業レベル、案件レベルにおいて、技術的な問題からODAの制度までを非常に分かりやすく詳細に比較分析されており、感心させられたと同時に、改めて日本企業の弱点を垣間見ることになってしまい、少々落ち込んだ。今後の方向性と取り組みについては、業界のわがままも多少あったが、日本企業が競争力を付けるための面白

いアイデアと政策提言等がなされ、多少元気を取り戻した。

3 環境パフォーマンスと企業評価のテーマについて

私が当社における職責上、本日一番の興味あるテーマでもあることから、気合を入れて聞いた。前述のとおり当社では、来月にISO14001の取得のために、昨年9月からEMS構築のための研修を受け、環境文書等を準備して、ようやく今年1月からの運用にこぎつけた。環境に関しても自分なりに勉強したつもりであったが、どうしても目の前の審査登録を意識してしまい、視野が狭くなっていることに気が付いた。審査でのトップインタビューのために、経営理念、環境方針等を持ち出して、高尚な解答を用意したり、環境は、「お金はかかるが商売になりにくい」の通説に流されたりと、必要性は理解できるが、おいおい消極的になりがちである。



平成14年度 第1回OECCセミナー会場風景

本セミナーでは、循環型社会でのGoodsとBadsの流れにお金をリンクさせたパラダイムシフト、企業評価についての社会的責任投資（SRI）、環境会計等が紹介され、私には多少レベルが高過ぎたが、環境が重要視されると同時に法体系、経済活動の中でしっかり組み込まざるを得ない深刻な問題であり、これ自体がビジネスになり得ることを認識した。これからも高い意識を持ちながら、当社のISOがISOのためのISOにならないように努力しようと感じた。以上、大変面白く有意義なセミナーであった。

（いわはし かずよし）